

ロースバーク時報

知事局五月二十二日土曜日

ロースバーク日本人收容所

日本聯合艦隊司令長官

山本五十六海軍大將戦死

U.P.電は日本聯合艦隊司令長官
山本五十六海軍大將の戦死を報じた。
後任として古賀峯一海軍大將が親
補されたといふ。

米海軍太平洋作戦

いよいよ対日攻勢を始む
真珠湾A.P.発信は、米海軍は
愈々南北太平洋に攻勢を取り北
は、アッツ島より南はソロモン、中央は
ギルバート群島、ナウル及びタラワより
ラエキ島を同時に、海軍及び空軍
にて爆撃を始めたを發表した。
アッツ島は十二日目の防戦尚續く。

大統領の親書目録

大統領特使デービスは昨夜その親
書をスターリンに致したが、クレムリン宮
殿に於て之を翻譯し、今朝スターリン
は一讀した。内容はハム表されながらス
ターリンの印象は好轉するものありしと
モスコウ今朝のA.P.は報じた。

ルイスス又華府へ出現

A.F.L.に復歸の意を表明したルイス
は今朝又華府へ出現した。

在はW.L.B.とイフケスと法理的権限
問題に關し、法曹家の意見を纏めて
法廷の裁断を受ける為であらうと評
されらる。

検査總長日本人をホむ

タイス委員委員トーマスは大統領に
次の懇請すると共に、その報告を併せ
發表した。

一、此際日本人リリースを大統領権に
て差止めざるべきを望むたい。

二、米國検査總長ビドルに従妹ミス
ヒドルに依頼するべきを家庭傷に
に經驗ある日本人を一名雇ひ度
に認むべきをヒラリバーセンター所長に
依頼した。仕事は料理係並に放
庭傷に、食料貯蔵月給八拾五。

両巨頭會談は大成

華府(廿日U.P.電)ローズヴェルト大統領
とチャーチル英首相との會談は愈々最
終決定に近付いたらしい。記者團を引
見した大統領に依ると、英米両巨頭
の會談を、兩國の謀略部員も全幅的
に支持して居るし、戰場目的も決定的であ
る。會談は次週迄續くが今回の會談
は非常な成功であるといふ。大統領は上機
嫌で語つた。

二百ヶ月前のアッツ島戦場

華府國際電)太平洋に於ける日米大
決戰場中心と目下世界の視聽を集
めてゐるアッツ島は、今より二百ヶ月前にも
戦闘が行はれた。當時露路國の毛皮商
人隊と土族の間に猛闘が行はれ、遂に
土族は女子供に至る迄露路人に撲殺さ
れた。之は一千七百四十五ヶ年の事である。
同島南部マサカリ湾の海岸には
米國探險隊の戦つた事がある。

豆ニエース

△タイス委員委員は、各地センター同胞の
パロ日本理由は、市民協會、兵務者
會、縣人會、國語學校、神道會
各派を教へてゐるが、市民協會と華
頭にしてゐる處に調査の權威如何を窺
ふ事が出来る。

△米國の炭坑は一八九九年以來少く共、
毎年一度、ストライキがあつた。

△濠洲メルボルンで、メイト、イン、ジャ、パンの
靴下を知らずに買った男が憤慨、
友人數名を連れ、其店に乗り込み、
残つてゐた十八足を店頭で焼捨てた。

△カタルカナルに残つた日本兵は大抵
六呎以上あつたと、米軍は驚かしてゐる。

△民衆に於ては、試練に違ひ無いが我々
日本人の一人々々に於ては、それと見
可た。如何と云へば、民族と云ふ言葉に
は責任が明かにされ、居ないからである。

カイザーの新事業

造船で一躍米國の大事業家と成つた
西海沿岸の淡水港ポートランドのヘンリーカ
イザーは、戦後に於ける、トレーンの新設備品
製造に従事するとする廿日又新事業に
於て發表した。

○ 傳教社拜
明日曜日夕七時半
才十中隊、倉倉堂

勤行十二社 導師 藤永覺眠師
説教 フォール傳教、什田隆英師
の基督教社拜

司會 祝部牧師
説教 可出及英の肝要、渡部牧師
明日曜日午前九時
才十中隊、社交堂

○ 時事解説
講師 大石兵六氏
明日曜日午後一時半
才三大隊、宗教堂 教師 野田主健

○ 寄附
知事局(才三大隊)
三井 上田喜三郎氏、二井 大井松之助氏
二井 相良直吉氏、一井 倉崎繁太郎氏
○ 才二大隊、知事局へ
一井 三拾五仙、鳥越文吉氏
○ 才二大隊、放送部へ
一井 上田喜三郎氏

○ ロースバーク傳道堂回課題
(雲の生草、涼み) 三十一日、本社宛

野田リ、先週(先週)の戦績
十中隊(勝) 十五対八、六中隊
十二中隊(勝) 十五対十、五中隊
十中隊(勝) 十五対五、九中隊

野田リ、戦日程
会廿二日(土) 午後五時半 五中隊、六中隊
廿三日(日) 午後一時半 九中隊、十二中隊
廿四日 午後五時半 十中隊、十一中隊

野田リ、戦日程

野田リ、戦日程

野田リ、戦日程

野田リ、戦日程

野田リ、戦日程

野田リ、戦日程

野田リ、戦日程

野田リ、戦日程

野田リ、戦日程

野田リ、戦日程

野田リ、戦日程

野田リ、戦日程

野田リ、戦日程

野田リ、戦日程

野田リ、戦日程

野田リ、戦日程

野田リ、戦日程

野田リ、戦日程

野田リ、戦日程

野田リ、戦日程

野田リ、戦日程



デビース大使の
成功は奇蹟的

華府方面消息通の信じて居る所では今
回、ロズヴェルト大統領の親書を携へて
スターリンは説役として露都モスコに赴
へたデビース大使がその使命成功し、口大
統領とスターリンが睦を交へ、相談する
事が實現したる、デビース大使は奇蹟
的の任事師である。

スターリンの本心は、口大統領と会談する
よりは寧ろ、ケヨルイスと戦時労働
問題を懇談する方により以上の秋波を
見せて居る。否、之は双方共に同じ考
へを持つて居ると見て差支へ無い。
若し、スターリンが口大統領と会談して見
た所で、佛蘭西からオニ攻戦線を用け
と強要するに對し、一方はそれを聞き得な
かつた今日迄の理由を説明する外交
上の懸引きに終始し、会談時間後
には氣味不味いものとならう。数週間
前にも、駐露米國大使スタンレーが
タイビレウからモスコに乗り込み、口大
統領の招待を懇談せんとしたるが、当
のスターリンは冷やかな態度で面会し
なかつた。任方無しに又大使はモト

口外相に其使命を傳へたであらう。
老獪なモ外相は、スターリンは戦時争の
方が大忙しだと挨拶をした。
斯うした経緯の間に乗り込んたデビース
大使が、白雲館の希望を實現し得
るとしたるは奇蹟的の成功と見てよい。
茲に注目される事は、昨年、我米國の取
上層部の人がスターリンに会つた時、米國
は直に佛蘭西からオニ戦線を用く
旨を語ると、彼は若し英國が貴國
(米國)を援助したらと彼はつけ加へた。
彼スターリンはオニ戦線をバルカン方面
から開始する事に興味を持たない。
スターリンは英佛海峽方面からオニ攻
戦線を開始する事以外には考へて
居ないからである。(メリーゴラウラウ)

誤れる祖先 (十六)
日系市民は米國式
暫くすると一世の役者が衣冠束
帯で威儀正しく舞臺に現はれ
た時、日頃、フアニー、ペーパーを
見てゐる子供一人は、キレク声で
「蝙蝠のやうな人間が出て来た
と叫んだ。スターリン、ケルデンが運
動場で時々餘りにラフになると
彼等の用語の最悪な言葉
即ち「コー、ダ、チ、シャ、ッ、ッ」
と罵る大声を聞くことがある。
ミニトカ、センターの小学校教師
二人、グラデイス、ギルバートソンは
「是等の子供は、私が今迄教へ
た如何なる子供よりも、米化に
関する課目を教へる必要が無

者である。彼等は米國主義は何を
意味するものかを実によく知つて
居る。彼等は今日迄、此米國主義
の許に去つて来たのである。
然るに、彼等は、米國の教育の根
幹となる自由を彼等がウ
膝蹴りされて仕舞つたのである。
然し彼等は、此自由を彼等の物
として回復する時には自由を有
する米國市民たる誇りを傷け
やう様、日夜戦ひ続けるであ
らう。

オニ大隊便り
○文化講演
造園とそのテクニク 石山寅三氏
令土曜日午後七時半
宗教堂にて 主催講演部

○曹洞宗禪學會
修證義講義 吉住浩崇師
明日曜日午前九時
○五中隊社交堂
○淨土宗聖典 研究
明日曜日午前九時
○聯合日曜礼拝
明日曜日午後七時
○説教 十條谷晃道師

最近小学校六年級の教師は
教室に国旗を掲げる事を望
んでゐたが、遂に其日が来た。
先生がター、ペーパーで出来たバ
ラックの、何の社名も無い教室
に米國の旗を掲げた時に生徒一
同は之を見たりや期せずして同

○オニ大隊文化講座第四週目程十一日食會堂
以上午八時半
夜部
金曜日午後七時
地政学オニ四講
毛利進子博士

英語夜学校
渡辺先生組
中林先生組
前週通り

起立、国旗に向つてサリユートした。
ハイスタイル、各級に亘る總数は一千
三百二十名で、央華兩州五十六の
ハイスタイルから集つた者である。
從つて、紹介する場合は互に話し
合ふ事が出来なかつた能たある。
然し、ミックサー、ダンスやボーイスカ
ウト、カールスカウト、カール、レザ、及び
ハイワイ俱樂部等があるため、
寄合世帯の不自然な空気が
法に改善されつてゐる。
是等、若い生徒達は教師に向
つて
「我等が戦つてゐる敵はジャ
です。然し我等は日系市民
です。」「
外部にある一般は、センターに居る
者、殊に日系市民が自由を奪
はれてゐる事を如何に憤慨して

居るかに感じ、其実状を知りた
いのである。如何と云ふは、且等
権を有する者であるからである。
日米開戦のオニに於て、ハイ
スタイル上級生が、次々如き事を語
つて居る。彼等の態度が如
何なるものかあるか、よく判る。
一人の學生は、十二月七日を思ひ起
して左の如く語つた
「教合会からホームへ歸つた後
私は、レザオセ、小、ニ、エ、ス、を
聞いた。それによると、或数の
外國飛行機が、パール、ハーバー
を攻撃した。而して、それ等の
飛行機は日本空軍である
と報じたが、私は是を聞いた
時にそれを信する事は出来な